

令和 6 年度全国高等学校総合体育大会弓道競技
第 69 回全国高等学校弓道大会
(長崎県島原市:島原復興アリーナ)

第 54 回東北高等学校弓道選手権大会
(山形県山形市:山形市総合スポーツセンター弓道場)

大会参加報告



秋田県立秋田高等学校 弓道部

鶯弓会のみなさまには、本校弓道部の活動に対し、平素より多大なご支援、ご声援をいただきまして誠にありがとうございます。このたび19年ぶり6度目の出場を果たしました令和6年度全国高等学校総合体育大会弓道競技、第69回全国高等学校弓道大会におきましても会員のみなさまから物心両面のご支援をいただき、本校弓道部は無事に大会を終えることができました。また、みなさまの温かいご声援に後押しいただき、男子団体で第7位に入賞することができました。本当にありがとうございました。

さて、19年ぶりにインターハイ出場権を獲得いたしました全県総体では、男子団体が予選2位通過(12中・9中・10中計31中/60射)したものの、決して高的中での通過とは言えず決勝の調子次第と不安の残る状態でありました。迎えた翌日の決勝リーグでは、本校13-7金足農業、本校12-10秋田北、本校16-11秋田中央と要所で詰め切る強さを見せ、見事に島原行きの切符を獲得することができました。また、翌日の個人決勝には皆川天・我満啓志・伊藤澄弥の3名が進出し、皆川が20射16中で優勝(IH、東北選手権出場)、我満が20射12中、射詰の末に第6位入賞(東北選手権出場)を果たしました。「学校生活を中心として、高校生として当たり前のことをやる。」と試合の的中だけでなく、弓道を通じた全人的な成長を遂げようと真摯に取り組んだ生徒たちの頑張りが呼び込んだ結果でした。

東北選手権は、メンバーのほとんどが初めて臨む上位大会でした。県外への移動、慣れない道場、宿泊を伴う大会参加など、普段と異なる環境に戸惑った選手も少なくなかったことと思います。その中で予選通過を果たし、全国選抜優勝校の山形中央高校とトーナメントで対戦できたことは大きな経験となりました。勝敗は一本で決する、だからこそ必要な場面で的中を出すという意識が育まれ、その後の成長につながる大会になりました。

そして高校生の夢舞台となるインターハイへと臨みました。鶯弓会のみなさまをはじめ、本当に多くの方々から物心両面で支えていただけましたおかげで、選手・監督ともに試合で「秋田高校の射をする」こと、まっすぐ引くことに集中することができました。そのおかげで男子団体第7位入賞を果たすことができました。それだけでなく、多くの方に応援していただけることの喜び、秋田県代表としてのプライドを胸に戦う責任感など、普段の稽古だけでは学ぶことのできない大切なことを身に付ける大切な学習の機会となりました。また、自信を得ると同時に、挑戦すべき全国の壁と向き合う機会となりました。全国には多様な射をする学校があり、私たちの取り組むものとは別のものとも思える射がありました。しかし、その根底には目の前の的を射貫くという共通の目標があります。実際に今大会では、私たちとは行射のリズムが全く異なる西日本の学校に跳ね返される結果となりました。対戦した彼らにとっての正射、それを追求し鍛え上げた力はすばらしいものだと思います。私たち秋田高校の弓道部は弓道の基本に則り、正しく美しい射をすること、「正射正中」を目標に、日々の稽古に取り組んでいます。これからもこの目標は変わることなく、県内はもとより東北、全国でも活躍できる力を付けていきたいと考えております。

鶯弓会のみなさまにインターハイ出場を大にお喜びいただき、ご声援くださいましたこと、また頂戴しました激励費により大会参加にかかわる環境整備が充実させることができましたおかげでの全国7位であったと確信しております。3年生はこれで引退となりますが、2年生、1年生は自分たちも全国で活躍したいとこれまで以上にやる気に満ちた表情で部活動に取り組んでおります。今後も、弓道を通じて先輩方から勉強させていただく機会がありましたら幸いです。引き続き、秋田高校弓道部にご指導、ご鞭撻くださいますようよろしくお願い申し上げます。

第 54 回東北高等学校弓道選手権大会(6/21~22)

男子団体

- 1 牧野昊世：3年
- 2 伊藤澄弥：2年
- 3 南野久和：3年
- 4 我満啓志：2年
- 5 皆川 天：3年
- 6 新目琉喜：2年
- 7 石田康晴：2年

男子個人 2名出場

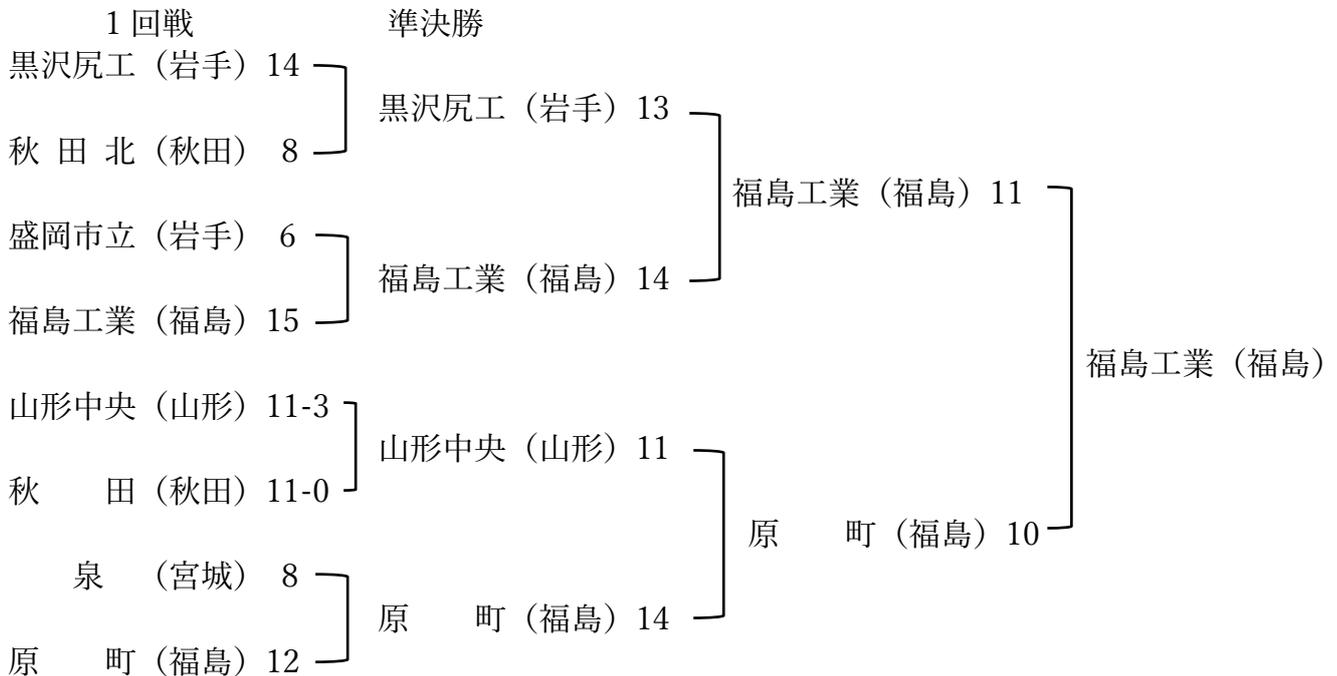
- 11 皆川 天
予選 8射 4中 ×○×○×○○× 敗退
- 19 我満啓志
予選 8射 6中 ×○○○○○×○ 決勝進出
決勝射詰 ○○× 順位なし

【予選】 14 校出場⇒8 校通過

予選1回目	1	2	3	4	個人計	団体計	予選2回目	1	2	3	4	個人計	団体計
牧 野	○	○	○	○	4	14	牧 野	○	×	×	×	1	8
伊 藤	○	○	○	○	4		伊 藤	○	○	×	×	2	
南 野	×	×	×	×	0		新 目	×	×	×	×	0	
我 満	○	○	○	×	3		我 満	×	○	×	×	1	
皆 川	○	○	○	×	3		皆 川	○	○	○	○	4	

予選合計 22 中 / 40 射 (予選 6 位通過)

【決勝トーナメント】



決勝T1回戦	1	2	3	4	団体計	射詰
牧 野	×	×	○	×	11	×
伊 藤	○	○	○	×		×
新 目	×	×	×	×		×
我 満	○	○	×	○		×
皆 川	○	○	○	○		×

最終結果はベスト 8 でしたが、たくさんの課題が浮き彫りとなる大会でした。インターハイに向け、やれるという自信と克服すべき課題が見えたことが大きな収穫でした。

選手の感想

1 的 牧野 昊世

初の上位大会だったため、とても緊張したことが心に残っています。また、外の大きな弓道場で引いたことがなかったため、会場が広域的がとても遠く感じ、自分の射に集中できなかったことも印象に残っています。一日目の公式練習では、会場の雰囲気になれることを徹底しました。まずは狙いの確認をするとチームで決めていたので、これを最優先にして練習しました。二日目の団体予選1回目では、的中より胴造りを優先して試合に臨みました。そのおかげで、不格好ではありましたがなんとか皆中することができました。三日目の団体予選二回目では、一回目が上位通過だったこともあり余計に緊張してしまいました。緊張で自分の射が崩れてしまい、チームに迷惑をかけてしまったのでとても申し訳なかったです。その後の決勝トーナメントでは予選でできなかったことを改善しましたが、うまく的中に繋がりませんでした。このままではインターハイでも同じことを繰り返してしまうと思い、今まで直らなかつた肩線のズレを直し、緊張しても当たる射形を目指そうと思いました。

2 的 伊藤 澄弥

この大会は私にとって初の上位大会でした。弓道を始めて1年経って、1年前までは上位大会に行けるとは想像もつきませんでした。1日目の公式練習のときに秋田県の今までライバルとして戦ってきた選手たちと一緒に練習して頼もしかったのととてもわくわくしていたのを覚えています。公式練習のときは初夏だったこともあって暑さと戦いながらの練習でした。そして、公式の練習後、天童弓道場で何回も2日目の試合を想定した練習をして、思うように的中が出せずに不安になっていました。そして、迎えた団体予選。第三控えに入った時点で心臓が飛び出しそうなくらい緊張しているのが自分でもよくわかりました。そして、予選が始まって緊張が更に高まりました。でも、一射目、二射目、三射目と順調に詰めていき、三射目が終わった時点でまたさらに緊張が高まりました。なぜなら、私は、皆中がかかっている四射目を外す「スケベ」をよくやってしまうので、そのことを思い出したからです。でも、今までやってきた練習を思い出しながら、自分を落ち着かせて、なんとか四射目を詰めることができました。皆中を成し遂げたあとは、自分が皆中をしたことよりも秋高の射や体配で団体予選で14中を出せたことが本当に嬉しかったです。東北大会3日目。団体予選二回目と予選を無事に通過すれば、団体決勝がある日でした。2日目と3日目には新潟から去年の三年生の先輩が応援に駆けつけてくださり、俄然やる気に燃えていました。でも、そのやる気とは裏腹に団体予選2回目は8中という結果でした。その時は、団体決勝にも進めないかもしれないという現実絶望していました。結果的に団体予選は運良く通過しました。団体決勝は、去年の12月の全国選抜の団体優勝した山形中央との対決でした。そのとき、全国選抜優勝と聞いて山形中央は15,16中を余裕で出すと思っていたらそんなことはなく驚きました。結果は11中と11中で射詰になって、負けてしまいました。私は、「スケベ」をしてしまい、あと1中のところで負けてしまい、「あと一中」の悔しさを学びました。この東北大会では、「あと一中」で勝敗が決まる一中と平常心の大切さを学びました。

3 的 南野 久和

東北選手権では、私達の代では初めての県外での公式戦で、慣れないことが多くあったように感じました。ホテルでの宿泊も弓道部では初めてであり、会場での蒸し暑さなどでも、体調管理が難しかったです。私は、予選2回目でめまいを起こしてしまい、以降の行射を断念することになってしまい、体調管理の大切さを学びました。ただ、そういった慣れない状況でも、その場で判断して行動することができたので、その点では自信になりました。また、チームとしては、秋田県勢の応援を秋田県全体で出すという、インターハイにつながる経験をしたり、予選一回目と二回目での的中に差が出て、調整の難しさを実感した大会だったように思います。決勝トーナメント一回戦で敗退し、悔しい結果となってしまいましたが、その分だけ、インターハイでは同じことを繰り返さないという決意が固まり、遠征にも慣れることができ、私達にとってとても意味のあるものになりました。

自分としては、とても悔しい思いで終わってしまいましたが、同時に、チームのキャプテンとして、チームを支えることもまた、自分の役割であると感じ、今までやってきたことは、完全に無駄ではなかったのかなと考えるようにもなりました。

4 的 我満 啓志

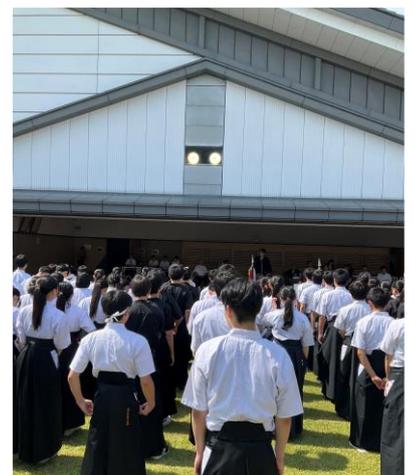
秋田県の武道館は室内ですが、東北選手権を行った会場は屋外だったため、気温などにやられないかが特に心配でした。大会期間中も非常に暑かったので、射に影響が出ないか心配でした。また、初めての上位大会だったので、他県の上手い選手もいる中で引くということもあり、この大会は緊張しました。このようなたくさんの不安もあったけれど、自分が持っていた力は発揮できたなと思いました。個人戦でも団体戦でも、決勝はいけたもののあと一歩というところで負けてしまいました。予選までは自分の持っていた力を発揮できたけれども、決勝となると緊張などもあって、あまりいつも通りにすることができませんでした。経験値はやっぱり非常に重要なのだなと思いました。予選でも決勝でもやることは同じなので、いかにいつも通りにできるかが大切なんだなと思いました。また、初めての長期遠征だったので、体調管理にも気をつけました。暑い中でどのように過ごすべきか、ホテルに帰ってきてどのように過ごすかなど、万全の状態でも臨めるように心がけました。様々な面から見て初めての経験が多かったので、不安な部分もありましたが、メンバーの人達とも協力しながら大会を乗り越えることができたので、よかったです。

5 的 皆川 天

大会開催前一週間程度、射型の改善に力を注ぎすぎたことで不調が続き、終ぞ的中率が戻ることはなく、前日に急遽全県総体時の射に戻して本番に望みました。前日の練習から特に留め矢がなかなか入らず、一抹の不安が有りましたが、昨年のミニ国の経験が生かされたのか予選一立目はそこまで緊張することなく行射を終えました。公式練習での変更が功を奏して調子は良く自信を持って望めましたが、その日の午後に個人戦では体力切れなのか暴発やビクが出てしまい、ベストは尽くせませんでした。二日目の予選二立目は一日目の好調な出だしと違って変わってメンバーの調子が思わしく有りませんでした。皆中でチームを助けることができました。ギリギリのところでも予選を通過し、迎えた決勝トーナメントの初戦相手は、全国選抜の優勝校である山形中央でした。東北の強豪相手に1 1 中同中の互角の戦いをし、自分自身も皆中といい流れでしたが、競射では5人全員が外すという未熟な面が表出してしまい、敗北しました。東北選手権大会自体、予想よりもレベルが高いというわけではなく、後のトーナメント試合を見ていると、勝てる試合がほとんどだったように感じます。プレッシャーのかかる場面でも安定した的中が出せるチーム作りが必要だと実感しました。

6 番 新目 琉喜

弓道で初めての上位大会で会場の雰囲気や他県の選手の雰囲気に圧倒された。僕は控えとして行ったので最初は声出しなどだったが秋田県の高校全体での応援など自分からしたらとても新鮮で新しいことが多くて楽しかった。また、応援の場所から様々な高校の射を見てそれぞれの高校で射に特徴があり、参考になるところが多くて勉強になった。交代して試合に出たときは県での大会より緊張する場面でいつも通りの射をできなく自分の未熟さを痛感した。自分が一本でも詰めていれば勝てた試合なので悔しさやメンバーへの申し訳無さを感じた。



令和6年度全国高等学校総合体育大会弓道競技

第69回全国高等学校弓道大会 (8/1~8/6)

男子団体

- 1 牧野昊世：3年
 - 2 伊藤澄弥：2年
 - 3 新目琉喜：2年
 - 4 我満啓志：2年
 - 5 皆川 天：3年
 - 6 南野久和：3年
- 介添 石塚啓介：2年

男子個人1名出場

- 24 皆川 天
- 予選 ○○×× 落選

令和6年度全国高等学校弓道大会 秋田高校 行程表

行動予定	時刻	イベント	備考	
7月31日 (水) 移動日	10:30	秋田空港集合	着替え等、大きな荷物は事前に宿舎に配送	
	12:00	秋田空港 離陸	ANA406便	
	13:10	羽田空港 到着	昼食等の自由時間あり	
	15:05	羽田空港 到着	ANA1803便	
	16:55	長崎空港 到着	弓具、自分の荷物を確認	
			宿舎へ移動	レンタカーでの移動
	19:00ごろ予定		宿舎に到着	配送済みの荷物を受け取る
	22:00	就寝	翌日からの日程に向けてしっかり休養をとる	
8月1日 (木) 公式 練習日	6:00	起床		
	6:30	朝食		
	8:20	開場時刻：到着目標	ただし、会場との位置関係により多少変動あり	
	午前	<input type="checkbox"/> 受付⇒IDカード着用 <input type="checkbox"/> 会場の把握（トイレ、導線、控所etc）：特に射場内（1階）のイメージ作り <input type="checkbox"/> 弓具点検(6人)⇒必要あれば弓具修理 <input type="checkbox"/> 巻藁練習（巻藁は20台） <input type="checkbox"/> サブアリーナでの的前練習		
		12:01	公式練習集合時間	アリーナ1階選手集合場所
		12:16	公式練習開始時間	射場を楽しむ
		12:25頃	公式練習終了	矢の取り違え等に注意
			昼食・休憩	
	昼食後	練習会場へ移動		
	16:00頃	練習終了		
			寄宿後は夕食・休憩・学習・ミーティング	
	22:00	就寝		
8月2日 (金) 練習日	6:00	起床		
	6:30	朝食		
	8:30	会場到着予定	会場入りして散歩・雰囲気を感じる	
	9:30ごろ	練習会場へ移動		
	到着後	練習開始		
	16:00頃	練習終了		
			寄宿後は夕食・休憩・学習・ミーティング	
	22:00	就寝		

8月3日 (土) 個人戦	5:30	起床	
	6:00	朝食	
	7:30	会場到着予定	弦を張り、可能ならば巻藁練習(天)
	7:56	天 サブアーリーナ招集	
	8:06	天 個人選手設定枠練習	
	9:00~9:10	開会式	登録選手6人・監督は射場に整列
	9:22	天 個人予選 招集予定	集合場所には開会式終了後にすぐ移動
	9:30	男子個人予選 開始	
	9:37	天 行射予定24番(2立目第4射場3的)	立射
	10:25	男子個人予選 終了予定	北高:安藤選手は58番(5-4-1)
		女子個人予選 開始予定	角高:三浦選手は9番(1-3-3)
	11:20	女子個人予選 終了予定	北高:姉崎選手は66番(6-2-3)
	11:30~12:45	個人準決勝戦	坐射
	12:55~14:40	個人決勝戦	坐射
	競技終了後	個人競技表彰式	写真撮影等あり
※団体の練習については10:45集合、10:55行射開始の団体A13を予定(サブアーリーナ)			
※個人戦の状況によっては、練習会場に移動して練習			
寄宿後は夕食・休憩・学習・ミーティング			
22:00	就寝		
8月4日 (日) 団体予選	5:30	起床	
	6:00	朝食	
	8:00	会場到着予定	弦を張り、可能ならば巻藁練習
	8:53	サブアーリーナ招集	
	9:03	団体選手設定枠練習	全国高体連のHPから状況確認
	9:48	集合時刻	集合場所に移動
	10:03	団体戦 行射開始	19番 第1射場
	それ以降	状況により、応援または練習	
	※状況を見ながら、サブアーリーナ若しくは他の練習会場で練習、翌日に備える		
	寄宿後は夕食・休憩・学習・ミーティング		
22:00	就寝	荷物は自宅に宅急便で配送	
8月5日 (月) 決勝T 1st 2nd round	5:30	起床	
	6:00	朝食	
	7:30	会場到着予定	弦を張り、可能ならば巻藁練習
	8:45	男子団体決勝T1回戦招集開始	予選の結果で時間は流動的 (全国高体連HPでチェック)
	9:00	男子団体決勝T1回戦開始	
	13:15	男子団体決勝T2回戦招集開始	1回戦の結果で時間は流動的 (全国高体連HPでチェック)
	13:30	男子団体決勝T2回戦開始	
	14:45	男子団体決勝T2回戦終了予定	
	それ以降	状況により、応援または練習	
	※状況を見ながら、サブアーリーナ若しくは他の練習会場で練習、翌日に備える		
寄宿後は夕食・休憩・学習・ミーティング			
22:00	就寝		

期間中の現地の気候は気温 35℃程度、天候は晴れ、湿度はそれほどないものの、灼熱と形容するのが適切な、屋外で弓を引くのは人体、弓そのものにとっても、非常にリスクの高い環境でした。しかし本校弓道部が練習拠点とした島原市霊丘公園(がんばらんば長崎国体の会場)には控室として冷房完備の快適な体育館が用意され、ストレス無く稽古を重ねることができました。

8月6日 (火) 決勝まで	5:30	起床	
	6:00	朝食	
	7:30	会場到着予定	弦を張り、可能ならば巻葉練習
	7:50	設定枠練習集合時間	前日の状況による
	8:45	決勝T準々決勝招集開始	トーナメントの組み合わせ次第
	9:00	決勝T準々決勝試合開始	
	10:05	団体5～8位決定戦	5～8位表彰式も試合後に即実施
	10:50	男女準決勝	
	11:35	団体3・4位決定戦	3・4位表彰式も試合後に即実施
	12:20	男女決勝	秋田高校の射を堂々とやりきる
競技終了後	閉会式(表彰式)	大会記録用写真撮影あり	
8月7日 (水) 移動日	6:00	起床	
	6:30	朝食	
	8:00	宿舍出発	忘れ物がないように十分注意 お世話になった宿舎に感謝を表そう
	10:00頃	長崎空港 到着	手続きを済ませ、搭乗まで自由行動
	12:35	長崎空港 離陸	JAL610便
	14:25	羽田空港 到着	出発ゲートへ移動
	14:55	羽田空港 離陸	JAL165便
	16:00	秋田空港 到着	現地解散

【本校の戦績】

【予選】28位通過/48校中

予選	1	2	3	4	団体計
牧野	○	×	○	×	12
伊藤	○	○	○	○	
新目	×	×	×	×	
我満	○	○	○	○	
皆川	×	○	×	○	

例年よりも高的中のチーム数が非常に多く、予選通過ラインが判明するのが最終盤までもつれ込んだため、選手たちは射詰競射に備えて準備をしていました。最終的には11中のチームによる射詰競射となり、本校の予選通過が確定となりました。

同宿の三校(秋田・福島工業・九州産業)がそろって予選通過できたことも喜ばしいことでした。

【決勝トーナメント1回戦・2回戦】

決勝T1	1	2	3	4	団体計
牧野	○	○	○	×	14
伊藤	×	×	○	○	
新目	○	○	×	×	
我満	○	×	○	○	
皆川	○	○	○	○	

松山南	1	2	3	4	団体計
1	○	○	○	○	11
2	○	×	×	×	
3	○	○	○	×	
4	×	×	×	×	
5	×	○	○	○	

どのチームも予選を高的中で通過したチームで、一本のミスが命取りになる試合でした。その状況下でありながら、体配を意識し、基本をやりきろうとした選手たちでした。試合、そしてインターハイという大舞台で当たり前にやるべきことをきちんとやりきるといふ姿勢を見せた選手たちの成長がうかがえました。

決勝T2	1	2	3	4	団体計
牧野	○	○	×	×	15
伊藤	○	×	○	×	
新目	×	○	○	○	
我満	○	○	○	○	
皆川	○	○	○	○	

徳島科技	1	2	3	4	団体計
1	○	○	×	○	13
2	○	○	×	○	
3	×	○	×	○	
4	○	×	○	×	
5	○	○	○	×	

【決勝トーナメント準々決勝・順位決定戦】

準々決勝	1	2	3	4	団体計
牧野	○	○	×	×	11
伊藤	○	○	○	○	
新目	×	×	×	×	
我満	○	×	○	○	
皆川	×	○	○	×	

宇部フ口	1	2	3	4	団体計
1	○	○	○	○	19
2	○	○	○	○	
3	○	○	○	○	
4	○	○	○	○	
5	○	×	○	○	

完敗でした。ですが、最後まで秋田高校の弓を引こうとした選手たちは立派でした。反面で、時や場所に左右されない射、的中力を養うことの大切さも勉強になりました。

順位決定	1	2	団体計
牧野	×	×	8
伊藤	○	○	
新目	○	○	
我満	○	○	
皆川	○	○	

- 第5位 中京高校（岐阜） 10中
- 第6位 豊橋商業高校（愛知） 9中
- 第7位 秋田高校 8中
- 第8位 盛岡市立高校（岩手） 7中

最終成績 男子団体第7位入賞

選手の感想

1的 牧野昊世

東北大会に次ぐ二回目の上位大会となったインターハイもとても緊張しました。東北大会明けから射形を改善しようとしていましたが、現地入りまでに間に合わずとても不安でした。一日目の公式練習では、会場の雰囲気や飲まれ、的中も出ず予選を突破できるかすらも怪しかったです。しかし、その後の練習では、全国の人たちの引き方を見て、自分の射形を改善できたので、緊張や不安が少し和らぎました。練習会場でも的中が出たので自信に繋がりました。団体予選では、とにかく胴造りを意識しました。そして、大前として一射目を必ず当てて後ろに繋ぐ決意をして試合に臨みました。結果は十二中で、今までの傾向からして射詰になるかもしれないのでとても不安でした。無事に通過できたと知ったときは、とても嬉しかったです。一回戦の松山南では、下位通過の自分たちにとって相手は完全に格上で勝てるかとても不安でした。それでも、自分たちのいつも通りを出せば勝つ可能性は十分にあると思うこともできました。そして試合では、ほとんどいつも通りに引き、見事勝利することができました。この勝利は、自分たちの力が全国にも通用すると実感させてくれました。おかげで、次の試合への自信を持つことができました。二回戦の徳島科学技術では、松山南と同じく格上で勝てるかとても不安でした。また、リズムが一定で基本に忠実なチームだったので、自分たちと似たような雰囲気を感じ、かなり僅差の戦いになるのではないかと感じていました。そのため、試合では一本一本を丁寧に引くことを心がけました。しかし、二手目が疲労でいつも通り引けず、また一手目が相手と同中だったこともあり、緊張して的中に繋げることができませんでした。自分では中てられなかったけど、仲間が中てくれたおかげでなんとか勝利することができました。試合が終わったあとに、相手の選手たちが頑張っってねと握手をしに来てくれて、負けてしまったチームの分も全力で戦いたいと思いました。決勝トーナメント一回戦の宇部フロンティア附属香川では、いい勝負ができると期待していました。しかし、本番になると相手のペースがとても早く、完全に相手の雰囲気や飲まれて、自分もチームも本来の力を出せなかったと思います。しかし、最後までチームが諦めずに、今までやってきた射を見せようとしていたことにとっても誇りを持っています。そして、順位決定戦では、今までやってきたことを全力でやり切ろうとしました。自分が中らず七位になってしまいましたが後悔はないです。

2 的 伊藤澄弥

インターハイも私にとって初の上位大会でした。高校3年間の中で2回しかチャンスがないインターハイに二年生で出場することができて、貴重な経験になりました。インターハイのときも東北大会の公式練習と同様に高い的中率を出せなくて、頭を抱えていました。東北大会のときと比べて、インターハイの団体予選までは時間があつたものの、やはり不安が押し寄せてきて団体予選を迎えるまで心が落ち着かなかつたです。そんなときこそ、的中うんぬんかんぬんを考えずに自分のことを客観的に見ながら、矢をまっすぐ飛ばすことを考えるようにしていました。前日の練習の時も四射二中で不安に押しつぶされそうになつたけれど、今までやってきたことを信じて心を落ち着かせていました。

インターハイ団体予選当日。いつものような第三控え、第二控えの仕切りがなく、オープンな状態で会場の雰囲気を感じました。いざ射場に入ると、頭の中は予選を通過できるか、的中を出せるかをずっと考えていました。でも、一旦落ち着いて、的中のことは考えず、まっすぐ矢を飛ばすことだけを考えたなら、皆中することができました。そして、予選は計12中でギリギリ予選を通過することができ、嬉しさで心が跳ね上がりました。

インターハイ団体決勝トーナメント当日。昨日よりも会場の雰囲気に慣れていて、あまり緊張はしなかつたです。団体一回戦の相手は松山南高校、団体二回戦の相手は徳島科学技術高校。秋田高校の射や体配の美しさに自信を持っていたので正直に言って「勝てる」と思っていました。その油断からかわかりませんが、気が抜けて、前日のような的中を出すことができませんでした。そんなときに団体の他の四人が中ててくれたので一回戦、二回戦は無事に突破することができました。二回戦の試合が終わつたあと、徳島科学技術高校の選手たちが「頑張ってください!」と言ってくださり、徳島科学技術高校の選手の分まで頑張ろうと胸が熱くなりました。

インターハイ団体準々決勝トーナメント当日。相手は、宇部フロンティア大学附属香川高校。斜面打ち起こして、20射17中を余裕で出してくる学校でした。結果は11対19で負けてしまいました。とても悔しかつたけれど、5~8位決定戦に向けてすぐに切り替えないといけませんでした。5~8位決定戦では、10射8中で7位に入賞することができました。ここまで来れたのは多くの人からの支援があつたからだと思います。

3 的 新目琉喜

東北大会やその前の仙台での試合では一切自分の射ができなかつた悔しさを払拭できるよう試合に望んだ。最初の個人戦では全国のすごい選手を間近で見れてすごく楽しかつたし、その場で戦っていた天先輩は改めてすごいと感じた。しかし、今思えばこのときからすでに会場の雰囲気に飲まれていたように感じた。予選の日は周りの人からも言われるくらい緊張してしまつて東北大会や仙台での遠征以上に自分の射ができなくなつてしまつたし、弓も落としてしまつて頭が真っ白になつてしまつた。自分がこれまで経験したことがないくらいの緊張で逆に言えば自分はここまで緊張することがあるのかと気付けたので今後に活かしていきたい。緊張していいこともあつて、試合前の練習などでは相手の学校に気を取られることもなく自分に集中することができたのでそこは良かったと感じた。次の日の一回戦二回戦では、前日に緊張しすぎたせいか思つたより緊張することなく自分の射を出すことができたと思つた。次の日の試合では緊張はしなかつたが単純に自分のミスで残念を出してしまつて、すごく悔いが残つた。順位決定戦のときは前の試合での反省点を改善して二本詰めることができた。大会で他の高校を見て当然のように的中を出す人が多くて全国のレベルの高さを感じた。

4 的 我満啓志

インターハイを通して、特に良かったなと思うことは、大会が室内だつたということです。大会が九州でしかも真夏だつたので、非常に暑かつたので、会場が室内でとても良かったなと思つた。練習会場の公園は射場が屋外だつたため暑い中引いていましたが、もし大会が屋外だつたら大変だつたなと思つた。

インターハイはそれぞれの県のトップの選手が集まる大会なので、他の人の射を見て、色々勉強になるものがありました。一番印象に残つたのは、射が綺麗=勝てるということではないということです。もちろん射が綺麗ならば的中も増えると思いますが、射があまり綺麗ではなかつたとしても、自分に合つた引き方を矢数をたくさんかけて徹底的に極めていくというのも一つのやり方ではあるのだなと思つた。秋田高校が負けてしまい、優勝した高校(宇部フロンティア香川)も、射自体はそこまで綺麗とは言えないかもしれませんが、全てが同じような引き方をしていました。

また、リズムの大切さも感じました。テンポがバラバラだったら、毎回リズムが変わってしまい、うまく自分の射ができなくなってしまうのだなと思いました（例外もあります）。チームを通して特に良かったなと思ったのは、自分の射ができたということです。どうしても上位大会での経験が浅いので、その場の雰囲気にも飲まれてしまうかと思いましたが、緊張しながらもいつも通りのことが全員できていたなと思いました。僕は緊張がほぼ0で引けたので、リラックスして引くことができたのでよかったです。

また、一週間も期間があったので、体調がとても心配でしたが、食事や睡眠などできることはしっかりとすることができたので良かったです。旅館のご飯も非常に美味しく、メニューが飽きず健康にも配慮され、量も調整されていたので、非常に充実していました。一週間何事もなく過ごせたのが良かったです。

5 的 皆川 天

夏期講座の関係上、直前期間で団体で練習できる時間が少ない中、昼休みに一立ち取るなどして工夫して練習しました。調子が悪いわけでは有りませんでしたが、早気や射形の諸々に悩まされ、納得した射が出来ないまま本番を迎えました。アリーナに到着してからは、設定練習など初めて経験することが沢山あり、ワクワクと動揺が半々で内在していました。公式練習では場の空気に飲まれ、極度に緊張してしまい、射の内容はここ数日で最悪でした。二日目の霊丘公園での練習の際に右肩を痛めてしまいました。メンタルコンディションは回復し、旅館に戻ってからはすぐに気持ちを個人戦に向け、右肩には湿布を貼って早いうちに就寝し、翌日への備えを万全にしました。インターハイ初日はメンバーの協力もあってスムーズに準備することができ、心身ともにベストな状態で二本目まで行射が出来ました。しかし、予選通過がかかった後半の一手でメンタルが崩れ、全身が震えてしまい、予選敗退してしまいました。二日目の団体予選は序盤から試合展開が想定を超えたハイレベルさで、多少の動揺はあったものの、初日の反省を活かし、極限の集中状態で丁寧な射をすることが出来ました。後輩3人のうち二人は皆中し、助けられたと感じる予選でした。三日目の決勝トーナメント一回戦では変則的な体配をする強豪松山南で、一本目はリードされる展開でしたが、相手が崩れるのを感じ取り、落ち着いて丁寧に四本詰めることが出来ました。二回戦は四本目の二的までの中が同じで、互いに非常に拮抗した試合展開でしたが、第一射場で引いていたせいもあり、完全に秋田が勝っていると勘違いしながら行射を進め、おかげで全く動揺することなく四本当てきりました。最終日、準々決勝であたったのは今大会優勝を飾った宇部フロンティア附属香川で、自分たちの未踏の領域である19中を出され、敗退しました。5～8位決定戦では10射のうち8本的中させ、勝ったように思われましたがやはり全国の壁は最後まで高く、7位に留まりました。東北選手権大会でもそうでしたが、意外にも自分たちの力が通用することを感じるとともに、全国トップ4を狙うなら19中20中の領域を体験することが必要だと思いました。来年以降は個人力の充実と、団体のレベルをさらに高めることを達成してほしいです。全国を経験した人が現役で残れることはとても大きなチャンスですので、ぜひ秋田高校の躍進につなげて行ってほしいと思います。

6 番 南野久和

インターハイでは、長崎という遠い土地で、普段することのない経験をすることができました。一週間の長い滞在では、自分たちで自分たちの体調を整える必要があり、学ぶことも多かったです。現地については、公式練習や、指定された場所での練習も初めてで、新鮮でした。大会が始まると、地区ごとの応援が凄まじく、私達も東北の高校を応援するのに全力で頑張りました。自分たちが生まれた場所に誇りを持ち、違う地区の選手たちに失礼なことを一切せず、それでも自分たちの地区の高校に勝ってほしいという気持ちがのった応援の声をその場で聞き続けられることが、とても幸福なことであり、自分たちもそのように相手に敬意を払いつつ自分たちに誇りを持てる選手、高校であろうと強く思いました。

今回のインターハイでは、私自身は控えとして選ばれ、公式練習や練習会場で弓は引いても、本番で引くことはなく、心のなかで自分の実力不足を悔やむこともありましたが、それでも、自分が六番として選ばれ、インターハイという場所にきた意味を考え、チームのためにできることを最大限模索しながら、控えとしての準備をしっかりと、キャプテンとしての責務を多少なりとも果たすことはできたのではないかと思います。射法訓にもありますが、「己に克つものをうらみず」の通り、仲間たちに対して後ろ向きな思いを抱くこともほとんどなく、夢見た大舞台上で仲間たちが弓を引き、活躍する姿を、ただただ誇りに思い、その姿に感動し、嬉しくなるばかりでした。全県総体でも、緊張し、結果が振るわなかった自分に代わり、自分たちの射を全うし、インターハイでの景色を見せてくれた仲間たちには、感謝の気持ちでいっぱい

です。

また、今回の経験では、いろいろな方々の協力のありがたさを実感することができました。宿泊させていただいた原城温泉・真砂様では、とても美味しい料理を朝、夕と提供していただき、長崎の美味しい郷土料理を味わうことができました。また、温泉もとても快適で気持ちよく、インターハイでつかれた体を癒やすことができました。また、応援の声も、校長先生に2日間に渡って応援に来ていただけたり、多くのOB会の先輩方、先生方に声をかけていただいたりなど、とても僕たちにとって励みになる言葉であり、とても嬉しく、その期待に応えられるように頑張ろうという気持ちになりました。

この度のインターハイでは、秋田高校弓道部として初めての、第七位入賞という成績を取るなど、私にとって初めてのインターハイで貴重な経験をすることができました。この経験は、私のこれからの人生にも活かせるものであると思うと同時に、この誇りに恥じない人間であり続けようと思いました。

【両大会を終えての成長として感じられること】（順不同）

メンタルの課題が弓道を続けた五年間のなかにずっと有りましたが、射に対して必死に向き合っていく中で的中を得る方法が確立し、県大会はほとんど緊張することなく普段通りの自分が出せました。今回秋田高校として初の上位大会に臨むにあたって、自分の力がどの程度通用するものか、普段通りの自分がどこまで出せるかということ意識していました。県大会に比べてレベルもプレッシャーも高い両大会で二回ずつ皆中することができ、パフォーマンスもコンディションも高い状態で終える事ができたことが、自分の中で大きな成長として感じています。夢であり最高目標の一つであるインターハイを楽しむことが出来て良かったです。チームを全国レベルで見るとまだまだ未熟です。各々で感じたことをこれからのチーム作りに活かし、全国大会に上位入賞できるようになることを祈ります。（皆川）

特に成長したと思うのはメンタルです。結果を残せたことはもちろんですが、他県の上位の人たちと戦えるという自信や、全員で協力する団結力など、様々な面でメンタルを鍛えられたなと思いました。また、射においても色々勉強になりました。秋田県では見る事ができないようないろいろな引き方を見ることができて良かったです。（伊藤）

両大会を終えて、自分の未熟さや実力が足りていないことが一番感じた。緊張ですぐ自分のベストが出せなくなる弱さを解決する必要があると感じた。二年生三人が出場したがほかの二人とは明らかに実力に差があるので追い越せるような練習が必要だと感じた。これからはインハイにでた選手として見られるのでそれ相応の立ち振舞をしていきたい。インハイで今までにない緊張を経験したので緊張しても自分の射ができるための圧倒的な実力をつけていきたいと思った。一番成長というか変わったのは県大会では15中などで驚いたりしていたが、インハイなどに来て高的中は当たり前に出るものだと感じて動じなくなったことだと思う。上位大会の経験を活かしてこの流れを断たないように頑張っていきたい。（新目）

上位のレベルを体感して、自分の射はまだ未熟でこれからも努力する必要があることに気づき、視野が広がったこと。やるべきことをしっかりとやって課題を見つけて、逃げずに向かい合えば、しっかり結果がついてくること。（我満）

期日までに間に合うプランを立てる事の大切さを知りました。前日にいくら状態が悪くても、当日には必ずベストの状態に持って行く気持ちを持っていれば、良い結果ではないにしろ努力が必ず現れると感じました。（牧野）

みなさまからいただきました支援金により、備品として

【ミズノ 弓立】



【ミズノ スーパー矢筒】



【校名入り弓袋 8本】



上記の物品購入をさせていただきました他、事前遠征（仙台、角館）2回の交通費（バスレンタル、燃料費等）、現地での食費、熱中症対策等の必要物品購入に利用させていただきました。

今回購入いたしました物品は今後も大切に使用させていただき、再度全国の舞台にこれらの物品も持っていきたいと考えております。

篤弓会員のみなさまからのご支援、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



写真提供：秋田魁新報社



写真提供：秋田魁新報社



